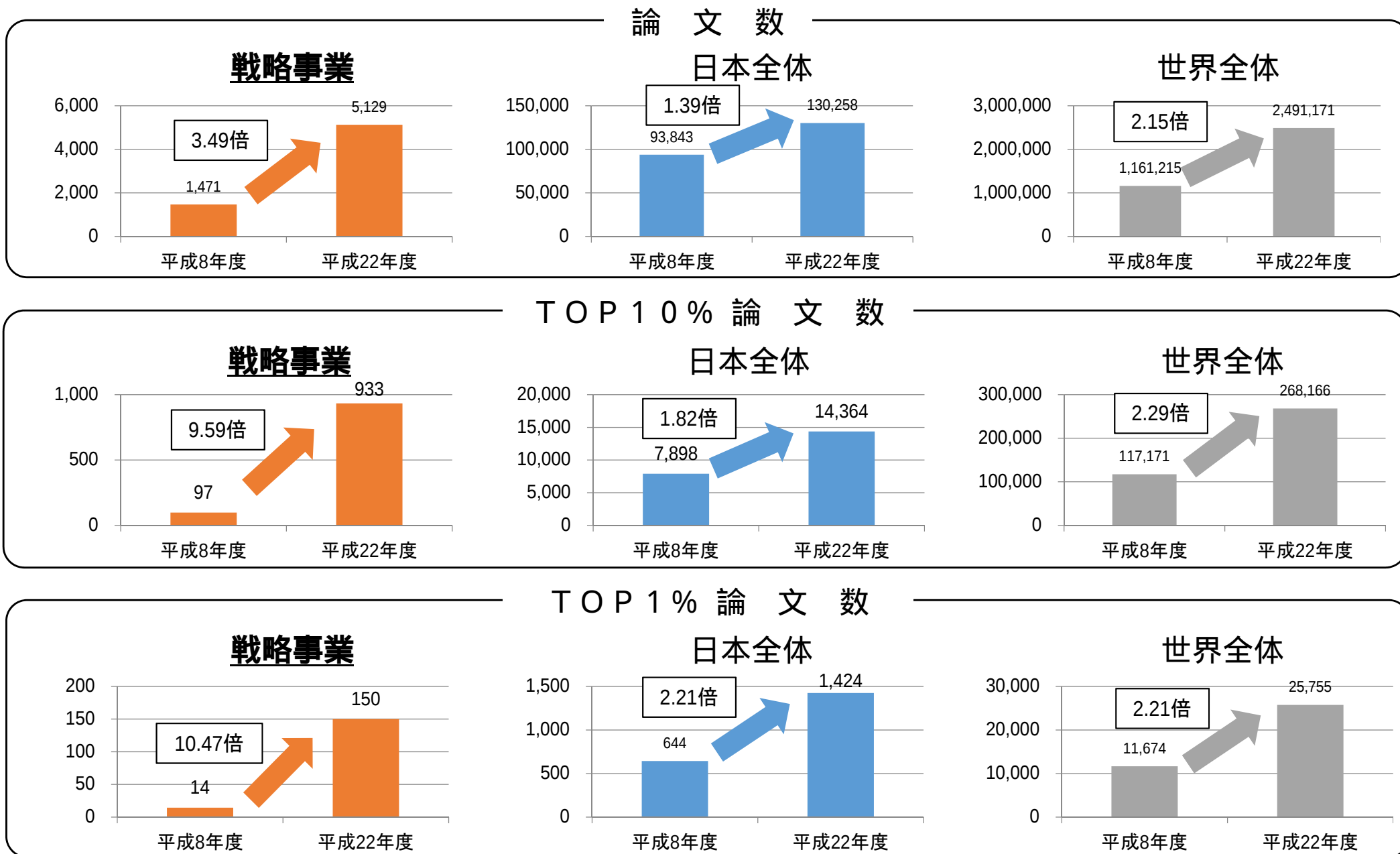


戦略的創造研究推進事業の関与論文数の推移

○ 戦略事業による論文数、TOP10%論文数、TOP1%論文数の伸びは、日本全体や世界全体の伸びよりも大きい。



平成8年度の値は平成8年度～平成10年度の平均値、平成22年度の値も同様

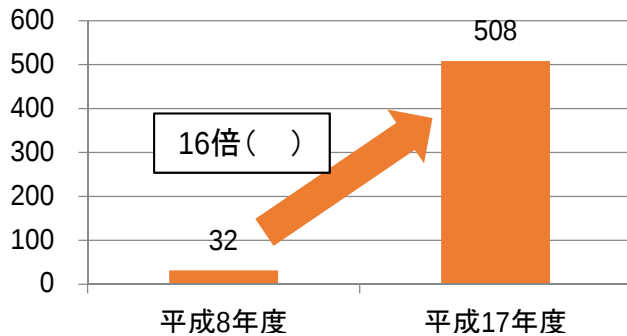
出典：Elsevier社のデータを基に文部科学省作成

戦略的創造研究推進事業が関与する特許関係指標の推移

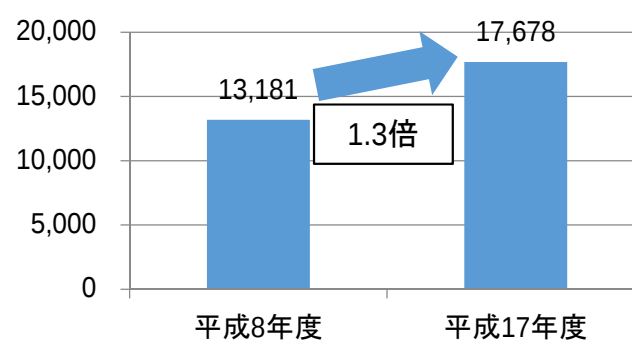
- 近年、特許に引用される基礎研究の成果が増えているが、特許に引用されるJST成果論文は上昇傾向が顕著。
- 細野秀雄氏(東工大、IGZO)、山中伸弥氏(京大、iPS)の論文が引用される件数が多いが、川崎雅司氏(東大)、十倉好紀氏(東大)、高木英典氏(東大)らによるナノエレクトロニクス研究、林崎良英氏(理研)、横山茂之氏(理研)、柳田敏雄氏(大阪大)などの成果も多く特許に引用されている。

世界48力国の特許(Derwent World Patents Index)に引用された論文数

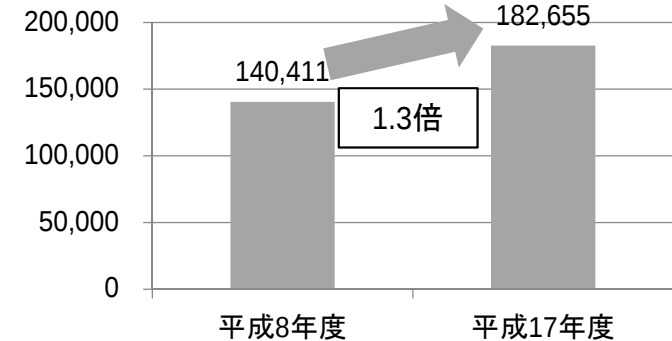
引用された戦略事業の論文数



引用された日本の論文数

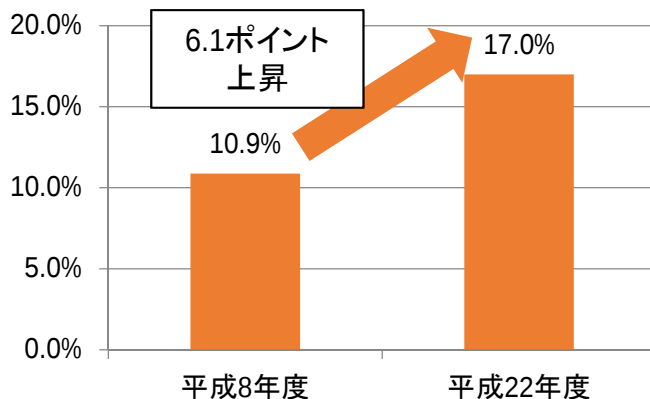


引用された総論文数



全数がカウントできておらず、H8年度時点で10～30%程度、H17年度時点で約50～80%の補足率と推定され、それを勘案すると、約2～10倍。

パテントスコアA-以上の割合



注: 戦略事業由来の国内特許において、A++, A+, A-, A-とレーティングされた特許割合の移動平均

国内特許のパテントスコア

- 注目度を数値化したパテントスコアにおいて、A-以上の特許数割合が上昇傾向。
- パテントスコアは評価指標、技術分野、出願年の組合せにより、株式会社パテント・リザルト社がレーティングしたもの。A-以上のスコアは7%未満。

